

平成28年3月10日

総務文教常任委員会 会議録 審査内容

◇会議録

- 1 日 時 平成28年3月10日  
開会 11時14分 閉会 11時34分
- 2 場 所 幕別町役場5階会議室
- 3 出席者 委員長 寺林俊幸 副委員長 野原恵子  
委員 板垣良輔 小田新紀 岡本眞利子 千葉幹雄  
議長 芳滝仁
- 4 傍聴者 内山美穂子 小島智恵
- 5 事務局 事務局長 野坂正美 議事係長 佐々木慎司
- 6 調査及び審査事件
  - 1 付託された議案の審査について  
(1) 議案第35号 幕別町過疎地域自立促進市町村計画の策定について
  - 2 所管事務調査項目について
  - 3 その他
- 7 審査結果 別紙

総務文教常任委員会委員長 寺林俊幸

## ◇審査内容

(開会 11:14)

○委員長(寺林俊幸) ただいまから、総務文教常任委員会を開会いたします。

本日の議案につきましては、お手元に配布のとおりであります。

まずはじめに、(1)議案第35号幕別町過疎地域自立促進市町村計画の策定についてを議題といたします。

はじめに皆さんの意見をお伺いしたいと思います。挙手をしての意見、発言をよろしくお願いいたします。

板垣委員。

○委員(板垣良輔) 忠類住民会議でしたか、というようところが、現在の1,500人から3,000人を目指すというような、大きな目標を掲げているというふうなことを報道等で知りました。そういった人口を増やしていくという団体の忠類からの声、政策みたいなものが、この中に反映されているのだろうかというふうな疑問を持ちました。とりあえず、そうした疑問を持ち、それが反映されているのであればどこなのだろうかというふうに思っています。

とりあえず以上です。

○委員長(寺林俊幸) ほかにございませんか。

野原委員。

○委員(野原恵子) この過疎地域自立促進市町村計画、これ資料出されましたが、平成28年度から平成32年度の5年間ということですがけれども、この中を見ますと、現状の忠類の状況を分析した資料なのですがけれども、前回の町のほうの説明では、一番は人口増を目指すということでしたけれども、今、板垣委員も発言いたしましたけれども、地域住民会議では人口3,000人を目指すということでした。けれども、どの資料を見ても、この資料の中には人口増は見込めないような資料なのですよ。例えば、資料の4ページなのですがけれども、平成27年度、4ページの②のちょっと上なのですがけれども、平成27年度から最終集計年の平成72年までの間に39.3%、約4割が人口が減るという推計を立てている中で、3,000人にしていくというのは、分析としては非常に矛盾が多いのではないかというふうに私は思います。

それと、高規格道路ができれば忠類も発展するようなことがずっと言われてきていたのですがけれども、この資料によりますと、過疎が進むという、ストロー現象みたいで、そこに人口が、観光客も忠類に足を伸ばすという、そういう状況にならないのではないかという、そういう分析なのですよ。そうすると、一番のメインである人口を増やすという、その手だてが、本当にこの資料からは見えてこないというふうに私は思いました。

それと、いろんなイベントもこの間、忠類でされているのです。それは、新聞紙上でいろいろ報道されているので、なかなか忠類まで私なんか行けないのですがけれども、かなり住民の方は研究し、そしてまちおこし、村おこしというのをされているなど思うのですがけれども、それがどのように継続されて、それが町の経済発展にどう結びついて、人口増まで結びついているのかという、そのところがちょっと見えないなというふうに私は思いました。

また、この間、新聞報道でも、今回予算化されるとは思うのですけれども、遊具を1億数千万円かけてつくるということだったのですけれども、これもやはり、そこに人口をいかに定着させて、それから地域からいろんな方が忠類を訪れて、経済効果もあるという見通しのもとで、こういう遊具なんかも建設されると思うのですが、そういうことをしっかりと継続させていけるような手だてが、私は必要ではないかと思うのですが、それがちょっと見えないなというふうには思います。

それと、アルコの問題もあるのですよね。もう皆さんそれはもう重々ご承知だと思っておりますけれども、1年間かけてこれからどういう方向に進めていくかということが課題だというふうに報道されております。皆さん、それは心配されていることだと思っておりますけれども、やはり今までの中でなかなかそれが改善できなかったのであれば、どのようにしたら改善できるかというところを、幕別のそこに関わる人たち、それから忠類の住民会議、そこだけでは打開できないのではないかというふうに思って、私はずっと見ていました。それで、施設そのものは、忠類の方からお話を聞きますと、アルコは残しておきたいのだというお話です。では、残すためにどうするかというふうになると、今の経営だけではなくて、施設運営そのものも形を変えていかなかったらだめなのではないかなというふうに思うのですよね。例えば、高齢者ですとか障害者、福祉関係の人たちとも連携を取りながら、そういう人たちも施設的な面もありながら温泉も残していける、こういういろんな発想の転換が必要でないか私は思ったものですから、そういうこともしっかりと意見として上げていくべきではないかというふうに、この資料を見ていました。

○委員長（寺林俊幸） ほかに意見はありませんか。

小田委員。

○委員（小田新紀） 私もこれ大体、全体を通してということになりますが、非常にもったいないというか、消極的な促進計画だなというふうに感じた部分がございます。せっかく、忠類の魅力という部分は、非常にあるかと思えます。その魅力をやはりしっかりと分析して、課題は課題として当然分析すべきことだと思いますが、やはりそこにある、ほかの町にはない、ほかの地域にはない魅力というものがあり、そこをより積極的に事業として重きを置くというようなことが必要なのかなというふうに思いました。例えばということではあるのですけれども、観光レクリエーションという部分でも、よく分析していくと、いろんなスポーツ施設もあり、それから宿泊施設もあり、アルコもそうなのですけれども、そういったものというのが、実はほかにはない魅力でもあるという中で、例えばスポーツ合宿等々というものも今後ニーズが高まりますし、また、高規格道路ができたわけですから、道内からも、かえって幕別の本町、札内地域に行くよりも、高規格道路に乗って忠類に行ったほうが早く行けると、行きやすいというような声も聞かれます。あるいは、学校のグラウンド等も小学校のグラウンド等も、課題があるということで整備するということですが、それも、普通にグラウンドを整備するというだけでは他地域との違いというのがないわけなので、そういったところで芝生化にしたりとか、何か魅力あるものをつくっていく。

それから、通信施設等々も、Wi-Fi がなかなか地域柄難しいと、企業の採算という部分もここにも書かれているのですが、ただ、やはり今後外から人が来ると、それから、そ

ここで仕事を起こすという部分においても、やはり Wi-Fi 機能、インターネット通信機能という部分は、非常に大事な要素になってくるというふうに思いますので、そういったところにいろんな課題はありつつも、積極的に推進していくというような攻めのというか、やっぱり魅力を生かした促進計画というものが見えてくると、なお一層いいなというふうに感じております。

以上です。

○委員長（寺林俊幸） ほかにございませんか。

岡本委員。

○委員（岡本眞利子） 私もこの計画には否定はいたしません、やはり少し計画自体がやわらかいのではないかなというふうに感じました。と言いますのも、産業の面なのですけれども、このページでいうと 18 ページですね。産業の振興というところを見ましたところ、その対策ということで、地元購買力の向上。では、どのように向上させていくのだという深いところもなかったように感じました。現在忠類では、既存の商店の支援ということは重大ではないかと思えます。以前にも、また一般質問なんかでもありましたが、買い物難民にならないようにという、忠類の方たちがやはり買い物をするのに大変不便だということなども考えまして、どのような対策を取っていくのかということでも見てみましたら、大体 25 ページのところ、事業内容で、プレミアム商品券を発行する幕別商工会への補助とか、その必要性というところと消費者の購買意欲を喚起しと。いや、もちろんそのようなことなのですけれども、それをどのようにしていくか。商品券を使えるお店がやはり少ないということもあり、商工会に加入していないお店では、やはりいくら商品券を持っていても使えない、その使えるお店が少ないということも問題点ではないかなということも思えます。その中で、また効果の中でも、商業者及び地域住民の双方が利益を得ることにより、活力ある地域づくりが広がっていくものであると。理屈はそうなのですけれども、では根底はどうなのかなというふうに考えましたら、まだまだ計画のほうは、詰めがやわらかいのではないかなというふうに感じたところであり

ます。否定はいたしません、そのようなところもしっかりと詰めていただいた計画にしていただいたほうがいいのではないかと感じたところであり

以上です。

○委員長（寺林俊幸） ほかに。

千葉委員。

○委員（千葉幹雄） 私は、理事者の立場ではありませんけれども、私は、私の理解なのですけれども、これはあくまでも過疎債を受けるための計画なのですよね。計画をつくらなかったらだめだよということなのです、始まりは。そこで、今の現状、そして決定している施策、これは入っていますよね。そして、先ほど板垣委員からお話がありましたように、その住民会議から、人口がね、それは私もいましたけれども、あくまでもあの会議というのは諮問会議であって、それは行政にどう反映するかということとはまた別次元の話ですから、まあまあ、これが入っていないというのがおかしいという議論にはなかなかならないのだろうと思うのです、この中にはね。

それで、今後の要するに忠類地区の活性化策、これは違う場面で議員として、そこは

やっていくべきだと思うのですね。ですから、これの持つ性格ということになると、私に言わせればちょっと泥縄なのですけれども、非常に抽象的ですよ。ということは、裏を返せば、これからどんどん具体的なものに入っていけるという、それは今後の計画でいいと思うのですけれども、具体的なことはね。ですから、この5年間の計画をとりあえず立てましたと。ですから、過疎債を発行するようにしてくださいということの私は押さえなのです。ですから、これが忠類の全てだということとは思わないほうがいいと思います。ですから、委員の方が言われているようなことは、今後の議員としての議会活動の中で、理事者に提言していけばいいのだろうというふうに思います。ですから、それとこれを絡めると、なかなか今お話あったように、甘いのでないかとか足りないのではないかという議論になるのではないかというふうに、私はそういうふうに理解しています、これ自体はね。

以上です。

○委員長（寺林俊幸） 野原委員。

○委員（野原恵子） いや、私もそう思います。過疎債を受けるためのあらかの計画だとは思うのですけれども、やはりここに、この計画が提起されたわけですから、それについて皆さんで論議して、ではそのために、過疎債を受けるために、どういうふうに理事者が働きかけるかということだと思ってしまうのですけれども、それは十分踏まえた上での意見というのは、やはりなかなかそういう場もないものですから、しっかりと考えて意見を出すということは必要ではないかと私は思っています。

○委員長（寺林俊幸） ほかにありませんか。

（なしの声あり）

○委員長（寺林俊幸） 意見がなければ、この案件につきましての討論を行いたいと思いますが、議案第35号幕別町過疎地域自立促進市町村計画の策定についての討論はありますか。

（なしの声あり）

○委員長（寺林俊幸） ないようですので、討論を省略して、これより採決を行います。

議案第35号幕別町過疎地域自立促進市町村計画の策定については、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○委員長（寺林俊幸） 異議なしと認めます。

したがって、議案第35号幕別町過疎地域自立促進市町村計画の策定については、原案のとおり可決されました。

この議案を含め、3議件全て議案審査が終わりました。

なお、議長宛てに提出する委員会の報告書につきましては、正副委員長に一任をお願いしたいというふうに思います。